

# もっと知りたい『改訂版 高校生の音楽2』

## こんなときはどの教材？

### Q1 合唱曲を探している

「365日の紙飛行機」(p.10)は平易な斉唱・2部合唱でどの学校にもお勧めです。2部では「唱歌の四季(朧月夜／われは海の子／紅葉／冬景色)」(p.20)がコンサートピースとしても活躍します。混声4部では「威風堂々」でおなじみの「Land of Hope and Glory」(p.57)をはじめ、「別れの歌」(p.54)、無伴奏の「わたりどり」(p.59)、團伊玖磨の大曲「河口」(p.60)と、幅広く収載しています。女声3部の「いつか王子様が」(p.56)や男声4部の「Ständchen」(p.58)もご活用ください。

### Q2 独唱曲を深めたい

まずは巻頭曲「歌の翼に」(p.8)に日本語で親しんでから、『改訂版 高校生の音楽1』と共通の「基礎的な発音のポイント」(p.27)でドイツ語・イタリア語の復習をして、原語での歌唱に臨みましょう。ブラームス「Wiegenlied」(p.22)、シューベルト「セレナード」(p.24)、「Core 'ngrato」(p.28)、トスティ「Sogno」(p.30)、ヘンデル「Lascia ch'io pianga」(p.32)には伴奏も掲載しておりますので、伴奏と旋律の関係を理解して自然なアゴーギグをつかませるのに最適です。

### Q3 一味違う創作をしたい

即興演奏を楽しむことから始めましょう。まず簡単なア・カペラ曲「Amen」(p.63)の繰り返しに合いの手などを加えて即興的音楽表現を体験します。次に、「音楽をつくって表現しよう」(p.79)で、いろいろな音素材を集めながら音に対する鋭い耳を育て、図形楽譜の作成・演奏へ発展します。

### Q4 主体的・対話的で深い学びの研究授業が待っている

音楽の授業は「主体的・対話的で深い学び」との相性抜群です。「知識構成型ジグソー法」を鑑賞に用いた例を挙げます。

例：グループ分けをして異なる情報に触れたのち、各グループから一人ずつ集まってラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」(p.93)を鑑賞し、それぞれの情報をもとに感じ取ったことを話し合っ共有する。グループごとの情報は以下の通り。

- ①：作曲者の当時の状況と、口絵(おもて表紙裏)やPMF、「のだめカンタービレ」のこの曲のシーンについて調べる。(楽曲の背景を考えて聴き取る)
- ②：楽曲の形式を調べる。
- ③：この曲のスコアとピアノ連弾版の楽譜を見比べる。(編成の違いによる特徴を聴き取る)
- ④：モーツァルトのピアノ協奏曲第20番を聴く。(時代や作曲者の特徴を聴き取る)

これらの視座による感想を統合して再度鑑賞することで、楽曲を立体的にとらえることができます。

#### 参考

#### 主体的・対話的で深い学びについて

主体的・対話的で深い学びは、知識の理解の質を高め資質・能力を育むものとされている。平成30年3月に告示された新高等学校学習指導要領においては、子供たちに育む「生きる力」を資質・能力として具体化し、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理をして、何ができるようになるかの明確化を図っている。また、政治や社会が身近なものとなっていることから、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことを求め、主体的・対話的で深い学びの表現に向けた授業改善、なかでも過程を重視した学習の充実が必要とされている。